

こしえるびと

つむぐストーリー vol.138

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の
メッセージをシリーズで紹介していく。

地域のきれいな景観を守りたい

花泉町涌津

岩渕

泰成さん

祖父が守ってきた農地を継ぎたい

真夏の到来を感じさせる強い光が差し込むハウスの中。時折吹き抜ける心地よい風を感じながら、岩渕泰成さんはピーマンの誘引作業に汗を流す。

高校卒業後、大学に進学。さらに高みを目指して進んだ大学院を中退し、実家で時間を持て余しながら祖父の司さんが請け負っていた農事組合法人なつかわファームの作業を手伝い始めた。そんなある時、司さんが突然圃場で倒れた。その時は大事には至らなかったものの、「地域の農作業を支える祖父に何かあれば、大変なことになる」と悟った泰成さんは、後を引き継ぐことを決意した。作業受託だけの経営では不安があったため、野菜も栽培しようと新規就農ワンストップ相談窓口を訪れ、相談を重ねた。品目をピーマンに決め、研修を経て2025年に就農。泰成さ

んの挑戦が始まった。

課題を一つずつ解決しながら

就農1年目の昨年7～8月、管内は記録的な渇水に見舞われた。泰成さんのピーマンも影響を受け、収量は伸び悩んだ。9月に回復はしたものの、稲刈りが始まったことからピーマンまで手が回らず、最終的に収量は目標の半分にとどまった。一方、今年の生育は順調に進んでいる。心掛けているのは「課題を次の年には解決する」ということ。水管理や畝の作り方、病害虫防除などの昨年得た課題を、一つ一つクリアしようと努めている。さまざまなことを教わろうと頼りにしていた司さんは、今年3月に他界した。「水稻とピーマンの繁忙期が重なってしまう」という悩みも、昨年は司さんと協力することで解決できたが、今後は「スケジュール

地域の景観の維持を目指して

泰成さんは草刈りなどの地域の共同作業にも積極的に参加している。土地改良区の事業で防草シートを張る作業にも加わった。人手不足や高齢化を感じるが、集落ではきれいに管理されている土地も多い。「祖父や集落の先輩たちが取り組んできたことを絶やしたくない」と話す。

今後必要なのは、省力化の仕組みづくりだと考えている。誰もが農業に取り組みやすいよう、手順を簡単にすることができないか模索する。

先人が手を入れてきた農地や景観がこれからも続くように、泰成さんは未来を見据え、まっすぐに歩き続ける。



PROFILE

岩渕 泰成さん (29)

Taisei Iwabuchi

花泉町涌津

1997年花泉町涌津生まれ。新規就農ワ
ンストップ相談窓口からJA研修生を経て
2025年就農。農事組合法人なつかわ
ファームの作業も請け負う。ピーマン20㍓、
米20㍓、作業受託として主食用米4.6㍓
とWCS 1.4㍓。両親、祖母、兄の5人家族。

